

SUPPORTERS

サポーターズ No.167 2026 春号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ

<http://ypta.jp/>

会員数 910名 施設数 187 (R8.2.24現在)

「supporters (サポーターズ)」とは…

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形のsを加え、supporters：支える人たち（造語）の意味です。



令和7年11月2日
第3回
身体の特化専門家と学ぶ親子『カラダ』ワークショップ



令和7年12月4日
理学療法部門管理者および
若手理学療法士向け意見交換会



山梨県リハビリテーション専門職団体協議会
設立10周年記念式典

CONTENTS

- 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会創立10周年を迎えて……………2
- コラム企画 第3回 私の科学の学び方……………3
- 令和7年度 一般社団法人 山梨県理学療法士会 交流会を終えて……………4

- 第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会および
第28回山梨県理学療法士会学術集会 開催報告…………… 5
- 活動報告・お知らせ…………… 6～7
- 事務局からのお知らせ…………… 8～9
- リレーエッセイPart49…………… 10～11
- 原稿募集……………10 編集後記……………11

山梨県リハビリテーション専門職団体協議会 創立10周年を迎えて

山梨県理学療法士会 会長
磯野 賢
甲州リハビリテーション病院



山梨県リハビリテーション専門職団体協議会は、山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会の3士会が相互の連携により地域に根差した活動及び研修等リハビリテーション専門職の立場から行い、かつリハビリテーション専門職相互の交流を推進し、各士会員による自主的・主体的な地域づくりの取り組みを支援・推進するとともに、県民の自助・互助の推進と医療・福祉・介護の増進に寄与することを目的に2015年8月1日に設立し、今年で10周年を無事迎えることが出来ました。他県に先駆けて、体制作りにご尽力いただきました諸先輩方並びにご支援いただきました関係機関の皆様、そして活動を支援いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。

令和7年12月6日には創立10周年を記念し、ホテル春日居にて記念式典・祝賀会を行いました。多くの関係機関代表者様にご臨席いただくとともに会員の皆様にご参加いただき盛会に終えることが出来ました。また、この中で記念講演としまして、山梨リハビリテーション病院施設協議会佐藤吉沖会長には、「山梨県の地域リハビリテーションのこれから」と題したご講演をいただきました。我々リハビリテーション専門職に対する期待を込め、地域リハビリテーション活動の重要性についてお話いただき、私たちの活動の方向性をお示し頂いたと思っています。



この10年間の活動では、私自身、第2代の会長を務めさせていただくとともに、コロナ禍の中、理学療法士会が主担当となりオンラインで山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会を開催させていただきました。また、地域リハビリテーション委員会、災害対策委員会、特別支援教育委員会、訪問リハビリテーション委員会、認知症対策推進委員会、がんリハビリテーション委員会、リハビリテーション普及促進委員会の委員会活動を中心として共通の推進課題に対して取り組み、山梨県からの委託事業も受託し、一士会ではできない活動につながり、その範囲も大きく広がっています。

これまでの10年は、諸先輩方の先見性と、関係機関の皆様、そして会員一人ひとりの地道な実践によって築かれてきました。今後、医療・介護・福祉を取り巻く環境が大きく変化する中であっても、三士会が連携する意義はますます高まるものと考えています。これまでの歩みを礎に、次の10年も県民に寄り添い、地域に必要とされるリハビリテーション専門職団体であり続けられるよう、関係者の皆様とともに歩みを進めて行きたいと思っております。



コラム
企画

第3回

私の科学の学び方

My way of learning science
健康科学大学 リハビリテーション学科
福田 京佑

「巨人の肩の上に立つ」。読者の皆様も一度は耳にした言葉ではないでしょうか。世界的に普及する学術文献検索サービスGoogle Scholarのトップページにも記されているアイザック・ニュートンの言葉です。この言葉は科学が過去の知の累積によって築かれることを示しています。

今日では「科学技術」という言葉が広く用いられています。科学技術とは、自然界のあらゆる対象の法則性を明らかにする「科学」と科学を実地に応用して、その事象を改変する「技術」という言葉が一体になったものです¹⁾。とりわけ、理学療法は鎮痛、循環促進、障害の防止と矯正、筋力、可動性、協調性など、身体機能の回復を目的とする治療体系であり、そこに利用される物理的的刺激として運動、温熱、寒冷、光線、水、マッサージ、電気刺激が存在します²⁾。すなわち、理学療法における科学技術とは、身体機能の回復に資する根拠(=科学)に基づいた物理的的刺激(=技術)を患者様へ提供することです。ニュートンの言葉に照らせば、こうした実践から生まれる「知」こそが理学療法の源泉であり、明日を変えていく原動力になると考えられます。

さて、今回は「私の科学の学び方」というテーマでご依頼をいただきました。本稿では私の体験談を踏まえ、科学を学ぶための基本についてご紹介します。科学とは自然界のあらゆる対象の法則性を明らかにする学問です。理学療法は医療行為であり、学問として成立するためには固有の理論体系が必要です。この理論体系を支えるものこそ、理学療法における科学(以下、理学療法学)といえます。科学には自然界の現象を起点とする経験的法則と、原理に基づく理論的法則があります。この場合、理学療法学は対象者の現象を観察し、仮説を立て、検証可能な方法と証拠に基づいて解釈し、結論を導き出す経験的法則に該当します。例えば、脳卒中片麻痺者の歩行において、Stiff Knee Gait(SKG)と呼ばれる現象があります。これは麻痺側遊脚期で十分な膝関節の屈曲が生じない歩行パターンを指します。主な要因には、麻痺側における大腿四頭筋の筋緊張異常や下腿三頭筋の機能低下などが指摘されています³⁾。このように歩行という現象に対して、特徴量を抽出し、そこにSKGとラベルをつけます。SKGの特徴量を分析して成因を特定し、統合的な治療を提供する一連の過程は、理学療法学に基づく科学技術の実践例といえるでしょう。

一見すると壮大な理論体系に物怖じしがちですが、科学の出発点は皆様の周りにも眠っています。話は少し脱線しますが、私は時間がある時、よく書店に行きます。今では電子書籍が流通し、書店の数も年々減ってきていますが、ある時「知は、現場にある(光文社新書)」と書かれた本と出会いました。臨床から大学へ移った当時の自分に重ねて思わず共感しました。理学療法に邁進する日々も、その出発点は臨床の患者様です。情報技術の革新と共に多くのアンメット・メディカル・ニーズが顕在化し、より良い明日を望む患者様が多くいらっしゃいます。私たち理学療法士も医療を支える専門職として、理論体系の深化と新規開拓が求められています。私の科学の学び方とは、現場に眠る未解決な課題を発掘し、磨き上げ、既存の理論体系と照合しながら更新していく営みです。本稿を通じて、理学療法に携わる皆様がその一歩を踏み出す契機になれば幸いです。

参考文献

- 1 文部科学省. 科学・技術・科学技術について. 利用日 2026/1/16. <https://www.mext.go.jp/>
- 2 中村隆一 監修. 入門リハビリテーション医学 第3版. pp.296-297.
- 3 Krajewski KT et al. Mechanisms of post-stroke stiff knee gait. Am J Phys Med Rehabil. 2025.



令和7年度 一般社団法人 山梨県理学療法士会 交流会を終えて



事務管理局長
大西 正紀
甲州リハビリテーション病院

令和7年10月29日(水)19時00分よりネオス・ミラベルにて令和7年度山梨県理学療法士会交流会が開催されました。参加者数は122名(一般会員96名、新入会員29名)、参加施設数は21施設と多くの方にご参加頂きました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、6年ぶり

の開催となりました。交流会では恒例の施設紹介も実施され、6年ぶりの開催でしたのでどのような施設紹介になるか心配していた部分もありましたが、コロナ禍前を彷彿させるような各施設とも趣向を凝らした施設紹介が行われ、会場は大いに盛り上がりました。席についても施設ごとでまとまるだけでなく、他施設同士の会員が相席になる席もあり、それぞれ会員同士



の交流も図れていました。

今回、会員同士の直接の交流の場の再開を行うことができ、「顔のみえる」関係づくりとしての事業の一つが実施出来たことは非常にうれしく思います。多くの会員の方が一堂に会する機会はなかなか無いと思います。次回開催の際にも多くの会員の方のご参加をお待ちしております。



参加者の声

中川 康大

春日居総合リハビリテーション病院

山梨県理学療法士会新人交流会に参加し、理学療法士一年目として貴重な交流の機会を得ることが出来ました。本交流会は、県内のさまざまな病院や施設から多くの方が参加していました。会食をしながら交流する時間が中心で、普段関わることのない他施設の理学療法士と、職場環境や業務内容、日頃感じていることなどについて話すことが出来ました。病院ごとの特色や雰囲気の違いを知ることができ、有意義でありました。

また、余興も企画されており、終始和やかで楽しい雰囲気の中で交流を深めることができました。今回の交流会を通して築くことができたつながりを、今後も大切にしていきたいと感じました。今後もこのような機会を通じて横



のつながりを広げ、情報交換や励まし合いができる関係を継続していきたいと考えました。同期との交流は今後の臨床を続けていく上で大きな支えになると感じました。また、非常に意義深い時間であったと感じました。

第44回 関東甲信越ブロック理学療法士学会 および

第28回 山梨県理学療法士会学術集会 開催報告

第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会
準備委員長 小林 司
石和温泉病院

令和7年11月15日・16日の2日間、山梨県甲府市のアピオ甲府タワー館にて「第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会」と「第28回山梨県理学療法士会学術集会」を開催しました。山梨での開催は10年ぶり、多くの皆さまのご協力により、無事に終えることができました。参加者は874名で、目標の1,000名にはわずかに届きませんでした。多くの方にご来場いただきました。

今回のテーマは「今いる場所とその先の未来へ～新時代を生きる理学療法～」。基調講演や特別講演、7領域の教育講演、シンポジウムなどを実施し、演題は308題と、非常に活発な発表・意見交換が行われました。

本学会を支えてくださった参加者の皆さま、準備や運営に関わってくださったすべての方に、あらためて心より感謝申し上げます。この学びやつながりが、これからの10年の理学療法をさらに豊かにしていく力になれば幸いです。以上、開催のご報告といたします。



スタッフの声

飯野 智貴

湯村温泉病院

湯村温泉病院に所属する理学療法士の飯野智貴です。第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会では運営スタッフに関わらせていただきました。若手運営スタッフの立場から執筆していますが、私自身学会での参加はこれが初めてで務まるのか心配でした。

当日はクロークといったことを任せられ、初対面の方々との対応で緊張していましたが先輩方が積極的にお声をかけてくださり落ち着いて業務に向き合うことが出来ました。また、混雑時にはチームで連携しながら荷物を正確に扱い、参加者が安心して学会に臨める環境づくりに貢献できたと感じています。

当日の運営での先輩方の支えや助言に触れ、運営の奥深さとチームワークの重要性を実感したとともに今回の経験を今後の臨床の糧としていきたいと感じています。この度の運営スタッフ、学会発表者の皆様と無事に学会を滞りなく終えられたことの感謝の気持ちを改めてここに記します。

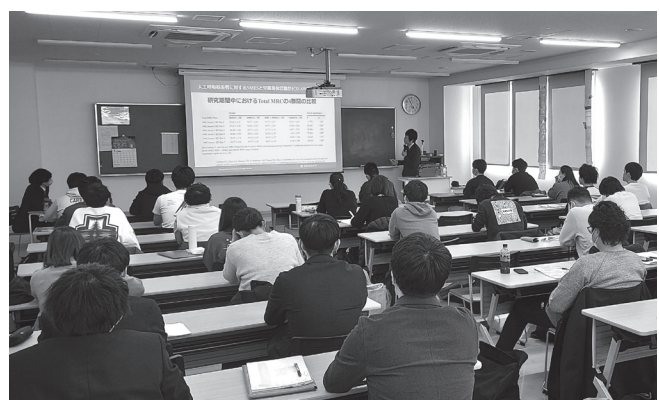


各部活動報告

第4回 学術研修会

2026年1月11日、2025年度第4回学術研修会を開催し、講師に兵庫医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授の玉木彰先生をお招きしました。当日は県外の先生方を含む25名の先生にご参加いただきました。研修会では、フィジカルアセスメント、呼吸介助および胸郭可動性改善方法を、実技を交えながらご指導いただき、呼吸理学療法における最新の知見だけでなく、臨床の基本となる評価・治療手技を学ぶことができました。対面形式ならではの玉木先生の高い治療手技を間近で体感でき、若手からベテランの先生まで非常に有意義な研修会となりました。

学術研修部では、県内の先生方の臨床技術の向上に貢献できるよう、運動器・中枢神経疾患・内部障害・トピックスを中心に年4回研修会を企画しております。県士会員の先生は参加費1,000円で参加可能です。この受講費で参加できる研修会は多くはありません。ぜひ今後も多くの先生方のご参加をお待ちしております。



加納岩総合病院 診療部 柳澤 兼也

★ お問い合わせ先：学術局 学術研修部部長 E-Mail : yptgkensyubu@gmail.com

参加者の声

今年最初の学術研修会に参加し、兵庫医科大学の玉木彰教授による講義を拝聴しました。研修会のテーマは『呼吸理学療法の最新トピックス—フィジカル・アセスメントと呼吸理学療法手技—』で、急性期から慢性期まで幅広い知見と臨床に直結する内容を学ぶことができました。

急性期では、臥床期間の延長による骨格筋量低下を防ぐため、早期介入・早期離床の重要性を改めて認識しました。また、慢性呼吸不全患者においても骨格筋量の減少が生命予後に影響し、フレイルやサルコペニアに対する運動介入の必要性を学びました。

実技では、視診・触診・打診・聴診を通して、健常者であっても胸郭形状や呼吸パターンに多様性があることを体感しました。リスク管理を十分に行ったうえで積極的な離床を進めることの大切さを再確認し、明日からの臨床にすぐ活かせる非常に有意義な研修会でした。

加納岩総合病院 診療部 柳澤 兼也



レスリング大会の帯同活動報告

令和7年12月25～26日の期間、小瀬スポーツ公園体育館にて「2026 JOC杯U20・U17全国予選大会（関東ブロック）」及び「2026 アジア選手権U15代表選出大会予選会（関東ブロック）」が開催され、救護班として帯同しました。



今回は国立スポーツ科学センターの中嶋耕平医師・重本理花医師とスポーツ理学療法部員9名で救護室とマット上での応急処置などを行いました。レスリングは高強度のスポーツであり、整形外科疾患のみならず頭部外傷や出血等、多岐にわたります。マット上での対応はルール上の時間制限がある中、迅速に処置を行う必要があり、「準備の徹底」の重要性を再認識しました。



医師や競技スタッフとの連携はもちろん、選手の安全を第一に考えつつ、競技の円滑な進行を妨げない立ち回りが求められるため、周囲との情報共有の質の向上が大切だと痛感しました。

今後は部員同士で各競技への理解を深め、より迅速で的確な対応が行えるように精進していきたいと思っております。

医療法人こうの会 こうの整形外科 山下 太輔

★ お問い合わせ先：社会局スポーツ理学療法部 森田 伸哉 E-Mail : m0ris0n.o4po9go@gmail.com



Synovial Joints Facilitation SJF学会 甲信越支部 山梨 定期勉強会のご案内

「臨床で使える技術を磨きたい」「一緒に学べる仲間を作りたい」そんなあなたにピッタリの定期勉強会です。毎回20名前後が集まり、和やかな雰囲気の中で学び合っています。参加者は臨床1年目のSJF初心者～20年以上のベテランまで様々。初心者や初めての方も大歓迎です。「SJFの事はまだよくわからないけど興味がある…」という方でも安心してご参加いただけます。是非、一度お気軽にご参加ください。

【日 時】毎月第3水曜日 19時～21時

【場 所】一宮温泉病院（山梨県笛吹市一宮町坪井1745） リハビリテーション室

【参 加 費】100円（当日徴収）

【申し込み】事前申し込みはありません 直接会場へお越しください

【お問合せ】SJF学会甲信越支部事務局 sjfkoushin@gmail.com



事務管理局からのお知らせ

= 重要なお知らせ =

◆ 会費の納入期限について

2026年度分の会費の納入期限は2026年(令和8年)3月中になります。

クレジットカード、口座振替の会員については、3月中に引き落としになります。

引落登録のない会員については、振込用紙(納入手数料あり)が順次発送されます。

注意: 振込用紙を利用されている会員につきましては、用紙到着から納入までの期限が短くなる場合があります。

3月末までに納入のなかった場合は、4月から会員資格喪失により退会の手続きをさせていただきますことがあります。

* 退会となった場合、これまで獲得した各種生涯学習履歴および認証資格等はすべて失効となります。再度入会を希望した場合は「新入会」となり再履修が必要です。

◆ **「4月以降の異動が決定した場合(特に県外へ)」**は、可能な限り早めの申請をお願いします。

◆ **「休会、退会」を希望される会員**は、2026年3月31日に手続きを完了できるよう早めに申請をして下さい。

* 期間内に手続きが完了した場合は、引落決済確定後も後日返金されます。

* 年会費納入確定後4月2日以降に申請をされた場合は、返金されませんのでご注意ください。

* 休会については1年毎の申請が必要です。

会員情報の変更手続きについては、

日本理学療法士協会HPの「マイページ」から手続きを行ってください。

マイページにアクセスするには、協会が各個人に発行したIDとパスワードが必要です。

「IDやパスワードがわからない」という方は、協会HPから再発行の手続きをお願いいたします。

「インターネット環境が無い」という会員の方は、

お手数ですが日本理学療法士協会まで問い合わせをお願いします。

(公社)日本理学療法士協会 TEL:03-5843-1747

* 会員情報につきましては、(公社)日本理学療法士協会の会員管理システムにて一括管理されているため、県士会単独では対応できません。

◆ (公社) 日本理学療法士協会の年会費割引制度の案内

日本理学療法士協会には年会費の「育児休業割引」、「シニア割引」、「海外会員割引」があります。詳細は日本理学療法士協会HP「年会費」をご覧ください。

◆ 会員の慶弔があった場合について

一般社団法人山梨県理学療法士会 慶弔規定に基づき対応いたします。

山梨県士会HPの「お問い合わせ」のページ内にある「会員慶事通知フォーム」、「会員弔事通知フォーム」からお願いします。

◆ 事務管理局への問い合わせについて

山梨県士会HPの「事務管理局への問い合わせ」メールフォームからお願いいたします。

インターネット環境がない会員の方は、

甲州リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科内 担当 山下

TEL:055-262-3121(病院代表電話) までお願いします。

◆ メール配信について、アドレス登録のお願い

令和2年9月1日から当士会独自のメール配信システムを稼働しました。

令和3年4月からは「紙文書による通知は廃止」、「原則メール配信のみによる通知」となっています。

引き続き会員の皆様には、アドレス登録についてご協力いただきますようお願いいたします。

・登録メールアドレスは1会員1アドレスでお願いします。

・一度登録したアドレスを変更する場合は、登録解除フォームにて登録メールを解除後に、新しいアドレスを登録しなおしてください。

メール登録フォームURL:

<http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showRegisterForm?gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf>



登録メール解除フォームURL:

<http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showUnregisterForm?gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf>



◆ インターネット環境が無いなどでメール受信が困難な方は事務管理局までご連絡ください。これまでどおり紙文書での通知を行います。

◆ メール配信におけるエラーメールについて

アドレスを登録していただいてもエラーメールとなり配信がされないケースが一定数あります。

その中でも携帯電話のキャリアメールのアドレスが多くなっており(ドコモ、au、ソフトバンク等のアドレス)。

また、当士会のメール配信は研修会などの情報が公開されたことをお知らせし、詳細な情報が記載されている当士会HPの閲覧を促すように掲載ページのURLをメール本文に載せておりますが、それを詐欺メールなどに判断されてしまう事もあります。

再度、ご自身のメール設定をご確認いただくか、別のメールアドレス(Gmailやヤフーメール等)への変更もご検討をお願いいたします



途絶えることのないバトンを君に / リレーエッセイ

『リレーエッセイ』とは…

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。
以前のSupportersにあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

リレーエッセイ

Part 49-1

山梨リハビリテーション病院 市川 裕貴

一宮温泉病院の雨宮一輝先生からバトンを受け取りました、山梨リハビリテーション病院の市川裕貴です。

みなさんは、忙しい日々の中で「自分の時間」をどのように過ごしていますか。私は、空いた時間にコーヒーを淹れて一息ついたり、資料作成やデザインを工夫したりすることが、良い気分転換になっています。特に「どう伝えると分かりやすいか」「見やすくなるか」を考えながらスライドや文章を作る時間は、つい夢中になってしまいます。時間を忘れて没頭できる瞬間があることは、日々の生活に良いメリハリを与えてくれます。そんな時間を大切にしています。

こうした趣味の延長線上で、学会発表や研修会の資料作成、SNSを通じた情報発信に関わる機会も増えてきました。振り返ると、楽しみながら続けてきたことが、結果的に仕事にも良い影響を与えていると感じます。これからも、自分なりのペースで楽しむ気持ちを大切にしながら、日々の臨床に向き合っていきたいと思っています。

今回は、春日居総合リハビリテーション病院の清水真琴先生にバトンをお渡します。よろしくお願いいたします。

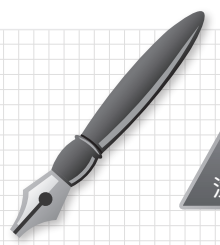


原稿を募集しています!

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

● 問い合わせ先：事務管理局 会報部 宇月正明
春日居総合リハビリテーション病院
TEL：0553-26-4126 FAX：0553-26-4366
E-mail：kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



注意 内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※ 第168号発行は、2026年9月を予定しています。

原稿の締め切りは

8月中旬です。

リレーエッセイ

Part 49-2

すばる放課後等デイサービスセンター 中込 悠太



株式会社クコアの菊池雅樹先生よりバトンを頂きました、すばる放課後等デイサービスセンターの中込悠太です。

様々なご縁があり、現在は放課後等デイサービス(以下、放デイ)で仕事をしています。ここで、放デイについて簡単にご紹介させていただきます。放デイとは、就学中の障害のある児童に対し、放課後やお休みの日に、生活能力向上や社会との交流促進などを供給する福祉サービスで、自立支援や社会参加を目的に、個々の状況に応じた発達支援を提供し育成する場となっています。

子どもたちはそれぞれに発達障害をお持ちですが、皆様々な方法で自己表現を行い、私もそんな子どもたちから日々元気やパワーをもらいながら仕事をしています。

近年、理学療法士の活躍する場が広がってきています。そのような資格を持って仕事ができる事に、私は嬉しさを感じています。

今回は、おおさと通所介護の甲田智洋先生にバトンをお渡します。よろしくお願いいたします。

編集後記



全ての医療・福祉に従事している方々と、お忙しい中、快く執筆をいただいた諸先生方に感謝申し上げます。
さて SNSを流し見していたらこんなポストが目に入った。『WHOが提唱した Healthy Ageingは、「自分が価値を感じることを行い、自分らしく生きる力である機能的能力を養い、維持する過程」とされています。WHOは2021年から2030年を「Decade of Healthy Ageing」と定め、その進捗を図るために各国に対して機能的能力のモニタリングを促しています。』と大阪医科薬科大学の記事の書き出しだった。私ら世代のPTは「機能的能力?」と思う節はある。その反面、Healthy Ageingの定義はひどく納得できる。「自分が価値を感じること…」私の場合は酒を飲むことかな。私が目指しているのは「今夜もお酒をノーマル賞」よりユニークで独創的な「イグノーマル賞を」、お粗末。

また会報誌発行の際には引き続きご協力お願いいたします。

宇月 正明

- 【発行】 一般社団法人 山梨県理学療法士会
- 【代表】 磯野 賢
- 【企画・校正】 宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 清水 真琴
- 【編集・印刷】 株式会社 たけまる
- 【会報部】 〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
医療法人 景雲会 春日居総合リハビリテーション病院
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



